

平成 24 年度施策マネジメントシート1(平成23年度実績の評価)

作成日 平成 24 年 8 月 21 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	建設事業課
			施策統括課長	森田 一
	施策名	7 道路網の整備	関係課	業務管理課,都市建築課,事業管理課

1. 施策の目的と指標

目 的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	A) 道路利用者 B,C) 生活道路(市道・一般県道)	A 道路利用者数(一般県道)	台/日	実績	30,504	30,233	31,548			
				見込			30,200	30,100	30,000	30,000
		B 市道・一般県道の路線数	路線	実績	2,276・17	2,250・17	2,280・18			
				見込			2,285・18	2,290・18	2,295・18	2,300・18
		C 市道・一般県道の延長	km	実績	1,154・131	1,155・131	1,155・			
				見込			1,156・131	1,157・131	1,158・131	1,159・131
	②意図(どのような状態にするのか)	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市内を安全で迅速に移動できるようにする。	A 市道改良率(1車線改良を含む)	%	実績	55.5	55.7	55.8			
				目標		(60)	56.0	56.2	56.4	56.5
		B 県道改良率(1車線改良を含む)	%	実績	56.6	57.7	58.8			
				目標		(56.9)	57.0	57.2	57.3	57.5
		C 1)生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合2)危ない場所があると感じている市民の割合	%	実績	58.9・74.1	57.1・70.4	55.7・70.8			
				目標		59.1・73.9	59.3・73.7	59.5・73.5	59.7・73.3	60.0・73.0
		D 市道の歩道整備率	%	実績	3.6	3.7	3.8			
				目標		(3.6)	3.7	3.8	3.9	4.0
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)		A,B)市道、県道改良が進めば、安全で迅速な移動が可能だと考えた。 C-1,2)安全で便利な生活道路かどうかは、道路利用者がどのように感じているかも判断材料になると考えた。 D)歩行者も生活道路利用者であり、歩行者にとっても安全で利便性が高いことが必要であるため、歩道があるかどうかを成果指標とした。								
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)		A,B)建設部で把握、島根県「道路等の現況調査」 C-1,2)市民アンケート調査により把握「あなたは日頃利用している生活道路が安全で便利な道路だと感じていますか?」「あなたが日常的に利用している生活道路で危ない場所があると感じていますか?」 D)島根県「道路等の現況調査」市道路台帳(道路現況調査)歩道等設置道路延長/道路実延長								
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)		A)成行値は、現在十分な予算確保ができず、大きな増加は望めない。目標値は、予算確保に努め、計画的に地域バランスを考慮して市道改良を進めることで、H26年にH20年から1ポイント向上することとする。 B)成行値は、県においてもA)と同様に予算確保が難しい状況である。目標値は、県に対して引き続き地元と一体となり、強く要望していくことで、今後の向上を図る。 C-1)道路改良率が向上することで、安全性・利便性は向上すると考える。よって、成行値及び目標値は、H21年実績を基に道路改良率に比例した数値とする。 C-2)C-1)とは逆に、改良率が向上することに合わせ、危ない場所は減少していくと考える。 D)市道については、基本的に道路改良に併せ歩道を整備しているため、C)と同様の考え方で設定する。								

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
①生活道路の新設・整備	生活道路	新設・改良する。	県道整備率 市道整備率	%	実績	56.6 55.5	57.7 55.7	58.8 55.8			
②道路の補修・維持管理	生活道路	適正に維持管理する。	生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合・危ない場所があると感じている市民の割合	%	実績	58.9・74.1	57.1・70.4	55.7・70.8			
③道路情報提供の充実	道路利用者	市内の道路情報を得てもらう。	サイン計画に基づく実施率	%	実績				サイン計画策定後(H24年度策定予)		
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①役割分担	●整備事業が円滑に進捗するよう、地元の事業推進体制(用地・補償の調整など)を整え、協力します。 ●生活道路の維持管理について、道路愛護活動への参加に努めるなど、地域でできることは地域で主体的に行う。 ●異常箇所を発見した場合は、道路管理者に通報する。	●整備計画を策定し、計画的な道路整備に努め、住民説明会などを通じて住民理解を得ながら事業を実施する。 ●舗装・側溝修繕、除草・樹木伐採、除雪など、適切な道路維持に努める。
②状況変化	A)施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか？(本年度を見越して) ○人口減少、少子高齢化による道路利用者の自然減と高速道路の開通による市道、県道利用者の減少が予測される。一方では、生活道路以外の利用として、市外の道路利用者の増加が予測される。○社会資本整備総合交付金(H22年新規)は、一括交付金化されることにより、自由度の高い制度となる。○東日本大震災の影響により、公共事業費の配分減少が懸念される。	B)この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ ○道路改良に関する陳情・要望が多数あり、陳情等の件数も増加傾向にある。(行止まり道路の解消、視距の確保、道路拡幅など) ○道路維持に関する要望等が増加傾向にある。(舗装・側溝修繕、除草・樹木伐採、除雪など)

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
☐ 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 ☒ 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 ☐ 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 ☐ 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 ☐ 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○H23年4月現在の一般県道改良率は、雲南市58.8%に対し、松江市68.1%、出雲市69.2%、安来市59.4%、大田市45.1%、浜田市54.0%、江津市44.8%、益田市54.0%で、8市の中では比較的高い。 ○市道改良率は、雲南市55.8%で、8市の中では最も高い。2車線改良率は、雲南市12.9%で比較的高い。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《7 道路網の整備》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
☐ 成果がかなり向上した ☒ 成果がどちらかと言えば向上した ☐ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した ☐ 成果がかなり低下した	背景・要因 ○市道整備は、継続路線の整備が完了しつつあり(南通り線ほか)、加えてダム関連整備が完了したことで周辺の道路環境が向上している。 ○一般県道は、要望活動を積極的に行った結果、改良率が向上した。 ○生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合及び危ない場所があると感じている市民の割合は、ほぼ横ばいであった。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
☐ 目標値より高い実績だった ☒ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○一般県道は、要望活動を積極的に行った結果、改良率が向上し、目標値を上回った。 ○市道は、計画どおり整備し、ほぼ目標値どおりであった。 ○生活道路の整備については、要望等も多数あることから計画的な実施に努めているが、アンケート結果から判断すると住民ニーズに達していないと推測される。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 生活道路の新設・整備	・市道改良事業は3路線完了し、残りの継続路線についてもH24年度には、概ね完了を図ることができる状況となった。
② 道路の補修・維持管理	・公共施設リフレッシュ事業は、道路の除草や側溝管理など、生活道路の維持管理に貢献した。 ・除雪事業は、除雪機械の増設を図り、除雪効率が向上した。一方、オペレーター及び機械の確保は、引き続き喫緊の課題となっている。 ・H23年度から市道の維持管理計画の策定に着手した。 ・橋梁長寿命化計画は、計画通りH25年度までに策定し、H26年度から本事業実施するために取り組んだ。
③ 道路情報提供の充実	・交通規制情報は、CATVを活用した情報発信などにより、適切に情報提供を行った。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区 分	今後の課題	次年度の方針(案)
施 策	○優先度や地域バランスを考慮し、計画的に道路網を整備していく必要がある。 ○生活道路を適正に維持管理していく必要がある。	○優先度、地域バランス等を考慮し、道路網を整備していく。 ○生活道路の計画的な維持管理を行っていく。
基本事業	① 生活道路の新設・整備	○新規路線の整備にあつては、優先度、地域バランス等を考慮し、整備していく。○残土の有効活用やコスト縮減を図りながら、効率的に整備していく。○環境に配慮した工法や再生材等を積極的に取り入れていく。
	② 道路の補修・維持管理	○市道の維持管理計画に基づき、計画的に維持・補修していく。○市道を適正に維持管理していくための道路・パトロール体制を充実する。○橋梁の長寿命化計画を策定する。○H26年度から橋梁長寿命化事業を進めていくため、国に対し財源措置の要望を行っていく。
	③ 道路情報提供の充実	○道路サイン計画に基づき、国・県との調整を図りつつ、効果的な道路サインを設置していく。
	④	
	⑤	